

意見書案第8号

(和光市議会)

あおり運転根絶に向けた対策の強化を求める意見書

上記の意見書案を和光市議会会議規則第14条の規定により提出
します。

令和元年12月16日

和光市議会議長 吉田 武司 様

提出者 和光市議会議員

待鳥 美光

賛成者 和光市議会議員

守原 友博

齊藤 克己

猪原 陽輔

赤松 祐造

島飼 雅司

小嶋 智子

松永 靖恵

萩原 圭一

あおり運転根絶に向けた対策の強化を求める意見書

前方を走る自動車との車間距離を極端に詰めたり、無理な追い越しをしたりする、いわゆる「あおり運転」については、平成29年6月に神奈川県内の東名高速道路において発生した夫婦死亡事故をきっかけに大きな社会問題となり、警察庁は平成30年1月、あおり運転等の悪質・危険な運転に対して厳正に対処する旨の通達を发出了。

これにより、あおり運転に関係する車間距離保持義務違反での摘発は、警察庁によると平成30年は約1万3千件と、前年と比べ約1.8倍に増加した。しかしながら、本年8月に茨城県内の常磐自動車道における殴打事件など悪質な事例が依然として相次いで発生している。現行の道路交通法にはあおり運転自体を直接取り締まる規定がなく、あおり運転に関係する車間距離保持義務違反の罰則は3か月以下の懲役又は5万円以下の罰金にとどまるため、あおり運転を行っても厳しく処罰されないという認識が運転者にあることも、あおり運転がなくなる原因の一つとされている。あおり運転を根絶させるためには、法整備を行い、あおり運転を直接取り締まるための規定が必要である。

また、あおり運転は、進行の邪魔をされたことなど、相手の運転をきっかけに始まるという調査結果もあり、運転免許の更新に際して、怒りの感情を抑えるアンガーマネジメントを学ぶ講習を行うなど、運転者が自身の怒りの感情をコントロールできるようにするといった対策も有効であると考えられる。

さらに、ドライブレコーダーは映像があおり運転等の危険運転に遭遇した際の証拠となるため、その搭載はあおり運転の抑止に有効であると考えられるが、搭載率は昨年において3割程度との報道もあり、まだ十分に普及しているとは言い難い。あおり運転対策としてドライブレコーダー搭載が有効であることについて広報等を行い、普及を促進することも重要である。

以上を踏まえ、国においては、あおり運転根絶に向けた対策を強化するため、下記の事項を実施するよう強く要望する。

記

- 1 あおり運転を禁止する規定を新設し、違反した場合には罰則を設ける等、あおり運転を直接的に厳しく取り締まるための法整備を早期に行うこと。

2 運転免許の取得や更新の際の講習では、あおり運転の危険性やその行為が禁止されていること及びその違反行為に対しては取締りが行われることについて、また、アンガーマネジメントにより運転者が自身の怒りの感情をコントロールする方法について盛り込むこと。また、教本や資料にこれらの事項を記載すること。

3 あおり運転対策としてドライブレコーダー搭載が有効であることについて広報等を行い、ドライブレコーダーの普及を促進すること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出する。

令和元年12月16日

埼玉県和光市議会

衆議院議長	大島 理森 様
参議院議長	山東 昭子 様
内閣総理大臣	安倍 晋三 様
法務大臣	森 まさこ 様
国土交通大臣	赤羽 一嘉 様
国家公安委員会委員長	武田 良太 様